

取材を終えて

小さな地域の大きな祭り。寺村山の神火祭りは、まさしくそんな祭りです。

古くから伝わる伝統を受け継ぎながら、自分たちの地域行事として、住民が力を合わせて開催しています。

そこには、当番の輪番制、宿の引き継ぎなど、次代に祭りを伝えていくための知恵が生きていました。そして何より、小さいころから家庭や近所で祭りが行われる様子を見て育つ子どもたちの中に、自然に祭りに対する思いがはぐくまれているからこそ、いつまでも地域に愛され続けるのだと思います。

取材のために、オヒカリを担当する当番の準備作業を追いかけました。7月初旬から毎週日曜日ごとに集まり、真夏のカンカン照りの日も、スコールのような雨が降る日も、懸命に作業を進める皆さん。口ではみんな「当番は大変だよ」と言うものの、その顔はいつも笑っていて、心を打たれました。

地域の祭りを大切に思う気持ち。その気持ちに支えられて、寺村山の神火祭りの火はともされ続けています。



◎永居さん家族 =堂村=

永居一男さん（中段右）、百合子さん（中段中央）
藤岡美保さん（上段左）、大希くん（中段左）、明希ちゃん（下段）
井上美紀さん（上段中央）、貴弘さん（上段右）

指折り数えて待つ祭り
家族が勢ぞろいする楽しみな日

寺村商店街の一角に住む永居さんご夫婦。4人姉妹のお子さんたちはみんな結婚し、今は地元を離れて生活しています。

祭りが開かれるお盆の時期になると、お子さんたちはそれぞれの家族を連れて帰省。永居さん宅は一気ににぎやかになり、活気があふれます。

今年も祭りの前日に帰省した次女的美保さんは「自分が子どものころも、親戚がいっぱい集まる祭りの日が大好きで、夏休みになると首を長くして待っていました」と話します。

「小学生のころ、祭りのためにお母さんに浴衣を着付けてもらうのがうれしくて。それを着て、親戚みんな

で花火を見ていました」と、次々に浮かぶ懐かしい思い出を聞かせてくれました。

「大人になった今も、家族や姉妹がそろって祭りの日はとても楽しみ」と笑う美保さん。今はそれぞれ離れた場所です。今もそれぞれ離れ、みんなが集まれるのはこの日くらいだと言います。

長男の大希くんも「おじいちゃんや、おばあちゃんに会いに帰るのを楽しみにしている」とのこと。迎える永居さん宅でも、百合子さんは食べきれないほどのごちそうを作り、一男さんは孫と遊ぶためのおもちやなどを準備して、帰省を心待ちにしています。

来年は、永居さん宅のあ

る堂村が当番の回り。6年前のときも、美保さんたちは実家に帰って準備の手伝いをしていました。「大人になると、姉妹でも一緒に作業をする機会はなかなかないもの。貴重な時間を過ごさせて楽しかった」と言う美保さん。「主人も手伝ったのですが、家族や地域の人がちと仲良くなって、楽しみながら作業していたみたいです」と話していました。

「祭りの日は家族や親戚が集まって過ごす、小さいときからそれが当たり前だと思っていました」。

ふるさとにみんなを迎えたいという寺村山の神火祭りに込められた思いは、確実に、地域に根付いているようです。

「お盆にはふるさとに帰っておいで」

——迎える人も、帰る人も、待ち遠しい祭り。いつまでも守り伝えたい——

寺村山の神火祭り保存会の会長を務める平岡孝夫さん。今年で3期6年目を迎えます。

●祭りの日に、地元へ帰ってきてほしい

「寺村山の神火祭りが現在のように大きくなったのは、町外に出た人たちにふるさとに帰ってきてもらおうと、お盆の時期に合わせて祭りを開くようになってから」と話す平岡会長。「過疎が進み、どんな人口が減っていく中で、地域に、にぎわいや活力を取り戻すきっかけにしたいという思いがあった」と当時を振り返ります。

祭りには、オヒカリを担当する当番の人々はもちろん、食べ物や金魚すくいなどの夜市を開く若者たち、うどんやおにぎりの接待を行う女性部の皆さんなど、住民が総出で



寺村山の神火祭り保存会
会長 平岡 孝夫さん

関わり、地域を挙げて訪れる人たちを迎えてきました。

「今では、人口4百人足らずのこの地域に約6千人が集まります。進学や就職などで地域を離れた人もたくさん帰省し、会場のあちこちで再会を喜び合う姿が見られるようになりました」と、顔をほころばせます。

●永続できる祭りに

一方で「いま以上に祭りを



大きくしたいわけではありません」と言う会長。「地域に負担がかかりすぎては祭りが続きません。大事な祭りを永続させること。状況に合わせて開いていけばいい」と考えを語ります。

さらに、祭りを継承し続けるもう一つの理由として「祭りを通して地域の連帯感が育つ」ことを上げます。

「若者はまず夜市の手伝いから祭りに参加し、やがて全体の運営に関わるようになります。当番が回ってくると、その班の老若男女が協力して作業します。その中で地域のコミュニケーションが保たれ、住民同士の良い関係が築かれているのだと思います」。

寺村地区にとって山の神火祭りは、世代を超えて住民みんなをつなぐ、大切な年中行事なのです。



1 2 会場のいたる所で、親戚や友人との久しぶりの再会を喜び光景が見られる 3 通りには、各地区がそれぞれちょうちんをともし、温かな光で人々を迎える